

Title	境界領域特集II 地球と天体の物理(1)
Author(s)	
Citation	物性研究 (1972), 18(6): 248-248
Issue Date	1972-09-20
URL	http://hdl.handle.net/2433/88525
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

地球と天体の物理 (1)

ここに境界領域特集の第二弾「地球と天体の物理」をお届けする。自然界の現象の妙味は物理学者を詩的化するに十分である。夏の日の高くのびる入道雲、雷の稲光、台風、そしてオーロラ等そのダイナミックな現象は子供ならずも興味深い。現在、ともすれば量子論的にミクロな現象を追求することばかりが深遠な（あるいは学術的に意義深い）物理学だとするような風潮が見られるが、それは本当は正しくないだろう。我々生きているものを含めて、地球そして太陽系、宇宙の現象の謎を解くのに、ミクロな立場であろうが、マクロな立場であろうが、高等、下等な学問という評価はあり得ない。物理学者を含めて、すべての科学者はすなおに自然に驚き、それをよく見つめ、解くべき問題を設定すべきであろう。

この特集の(2)では地球を含む太陽系や星及び宇宙の問題がとりあげられる。最近の急速に発展してきた天体物理学の現状と将来に焦点があてられる。

この特集が特に若い研究者に、自然界の現象がいかに謎が多くて、まだ解けていないか、そしてそれが物理の問題なのだという事を訴えるよう期待する。（編集部）

目 次

1. 雷放電の物性	小川俊雄	249
2. 雲物理学	磯野謙治	268
3. 地球大気の中間圏、下部熱圏における 中性大気組成と光化学、化学反応	福山 薫	287
4. 超高層大気と光化学	等松隆夫	302
5. オーロラ	佐藤哲也	319
6. 電離層における non-reciprocal な電波伝播	荒木 徹	338